

令和5年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	40	学校名	県立潮来高等学校				課程	全日制			学校長名	小澤 茂幸					
教頭名	田辺 宏行							事務室長名			齋藤 克久						
教職員数	教諭	27	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	6	実習教諭	1	事務職員	2	技術職員等	5	計	50	
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数					
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	普通科	50	21	49	26	28	28			127	75	6					
	地域ビジネス科	14	7	14	14	5	4			33	25	3					
人間科学科	6	34	12	27	9	17			27	78	3						

2 目指す学校像

人間性豊かな自立した生徒の育成 ～どのような時代であっても一生涯、自立した人生を歩める人間を育成する～

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	地域社会に貢献でき、人間性豊かで自立した人生を歩むことのできる人財
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	学科や地域の特色を生かした学習活動により基礎学力の確立と、社会を意識したキャリア教育による生徒の進路希望実現。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、毎日の学校生活に「一生懸命・楽しく根気強く」取り組むことができる生徒

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	家庭学習時間が十分とはいえない生徒が多く存在する。自主的に計画的・継続的に学習を行う習慣が定着していない。	学習意欲を向上させるために、授業・課題・考査の取り組み方などについて指導の工夫・改善に努め、自ら学ぶ意欲を喚起する。
進路指導	卒業生の進路決定率はほぼ 100%だが、第一志望が叶わず不本意な進路に流れてしまう生徒もいる。生徒の進路意識の高揚とともに保護者の協力・支援も必要である。	面談や進路行事、LHR、総合探究の時間を活用するなど学校生活のあらゆる場面で進路意識の高揚を図りながら、家庭との連携も深める。
生徒指導	信頼関係を築きながら丁寧に指導の段階を踏むことで、生徒は概ね落ち着いた生活状況にある。ただ、ルールやマナーを守れず、やや軽率な言動を取る生徒もおり、一部に規範意識の欠如がみられる。	共通理解のもと、生徒観察や声掛けを徹底し、個に応じたきめ細かい指導を心がけることで、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上をめざす。
特別活動	全国・関東大会で活躍する部がある一方、全体の部活動加入率は 35%程度にとどまっている。また生徒会活動や委員会活動、学校行事に取り組む積極性に欠ける生徒もいる。	部活動や委員会活動、学校行事への積極的参加を促し、キャリア・パスポートを活用して生徒個々の人間的成長に繋げる場面を創り出す。
働き方改革	学級減にともない年々職員数が減少し、1人当たりの業務負担が増えている。そのため、特に経験の浅い教員が苦慮し、勤務時間超過の傾向にある。	業務内容や学校行事を精選したり、会議の在り方を見直すとともに、ベテラン教員と若手教員とでチームを形成し、仕事上のスキルを継承していく。

5 中期的目標

1	基礎学力の定着 ～学習習慣を確立させる～
2	社会を意識したキャリア教育の推進 ～ルールやマナーを遵守し品格ある態度を育てる～
3	豊かな人間性と社会性の涵養 ～多様な学校行事や部活動を通して人としての成長を促す～
4	学科や地域の特色を生かした教育の充実 ～学科や地域の特色に応じた活躍の場を創出する～
5	地域や保護者との連携 ～地域に愛され保護者に信頼される学校をめざす～
6	働き方改革の推進 ～業務の効率化で生まれる心身の余裕を生徒の指導に生かす～
7	授業改善 ～協働的な学びにより、生徒が主体的に学び、授業の質と満足度を向上させる～

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ① 「主体的・対話的で深い学び」について研究し、全ての授業で ICT も活用しながら生徒の活動・体験を盛り込んだ指導の実践に努め、インプット型学習からアウトプット型学習への転換を図る。 ② 個の適性・資質・進路希望に応じた学習指導の充実を図り、「個別最適な学び」を支援する。 ③ 授業と課題等を結び付け、自主的・自律的に学ぶ姿勢を育み、家庭学習時間 0 分の生徒をなくす。 ④ アンケートの授業に関する全項目で満足度 85%以上をめざす。
2 社会を意識したキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 適時に適切な進路行事を実施し、勤労観・職業観を育むとともに社会性を養う。 ② 丁寧な個別面談を通して、社会との関わり方を考えさせ、将来の進路設計を促す。 ③ 進路決定率 100%を実現し、就職指導に加え進学指導にも力を注ぎ、4 年制大学・短大進学 15 名以上の合格をめざす。 ④ キャリア・パスポートの活用により、人間関係形成・社会形成能力等を育成し、自己実現につなげる。
3 豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 家庭との連携を深め、欠席・遅刻・早退を減らし、基本的な生活習慣の確立をめざす。 ② 生徒の心情理解を図り、信頼関係を築きながら生徒指導に当たり、特別指導件数を昨年度以下に抑える。 ③ 生徒とのコミュニケーションを大切にし、登校指導や学校行事、委員会活動など学校教育活動全体を通して、「豊かな心」を養い、いじめの早期発見・早期解決に努める。 ④ 部活動加入率 40%超をめざし、各部とも部員を確保し継続的に活動可能な体制づくりを行う。
4 学科や地域の特色を活かした教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 学科や地域の特色を踏まえ、実社会・実生活との関わりを重視した体験・探究活動を設定する。 ② 地域の行事やボランティアなど生徒が積極的に外部と関わる機会を創り出す。 ③ 検定試験や資格取得、課題研究などへの取り組みを推奨し、生徒が自主的に学ぶ姿勢を引き出す。
5 信頼される学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 潮来市唯一の高校として「地域と共にある学校」を理念とし、地域との繋がりを重視する。 ② 保護者や地域の方との信頼関係構築をめざし、学校公開や地域の行事を大切にする。 ③ HP の更新・閲覧回数を昨年度以上に増やし、学校だより（中学生対象）の発行を月 1 回行う。
6 働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ① ベテラン・中堅・若手でチームをつくり、スキルを組織的に継承し、業務の効率化を図る。 ② 月 45 時間超過の教員がゼロになるよう業務改善・教員の意識改革に取り組む。 ③ 働き方改革で生み出された心身の余裕を生徒の指導に生かしていく。
7 授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ① 教員同士がスキルを高めあうために、相互の研究授業を積極的に実施。教員間のノウハウの共有や、新たな授業手法の発掘を図る。 ② 生徒の授業に対する満足感や充実度をアンケートで測り、肯定的に評価している生徒の割合 85%以上を目標設定とする。 ③ 各学科の特色を活かした授業展開にも力を入れ、生徒が能動的に学べる最適な授業展開に取り組む。